


【河川課所管 事後評価審議資料】

○ 総合流域防災事業【一級河川 坂本川】

- ・ 平成 27 年度事後評価箇所表
- ・ 説明資料（パワーポイント）

平成27年度事後評価箇所表

担当課〔河川課〕

番号	1	事業名 (路線・河川名等)	総合流域防災事業 (一級河川 坂本川)
事業実施箇所	中津川市	全体事業費	(当初2,000百万円) 3,662百万円
採択年度	昭和57年度	完了年度	平成21年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね5年経過したもの		
事業目的	坂本川流域では、昭和58年、平成元年に家屋の浸水被害が発生しているため、河道拡幅等の河川改修を進め、治水安全度を向上させ、浸水被害の解消を図る。		
事業概要	坂本川 L=4.0km (掘削工、護岸工、橋梁架替)		
概要図	 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 流域界 市町村界 高速道路 主要道路 鉄道 事業区間 		
	 <p>S58.9 豪雨 浸水状況</p>		

評価結果	
<p>① 住民の参加・協働による効果</p> <p>■ 計画段階 : 事業説明会を実施。</p> <p>■ 事業中 : 事業説明会及び河川整備計画策定時（H12.3）に住民アンケートを実施。</p> <p>■ 事業後 : 地域住民による河川清掃、草刈り等の実施。</p>	
<p>② 事業の効果</p> <p>・ 昭和58年9月洪水に対して、浸水被害（床上1戸、床下6戸）を解消。</p> <p>・ 着手前に比べて、計画流量が流下した場合約1.7m水位が低下。</p> <p>・ 1/20規模の出水により想定される氾濫被害（浸水面積約25ha、浸水区域内人口約200人、浸水家屋数約70戸）が解消。</p> <p>■ 費用対効果</p> <p>・ $B / C = 1.5$</p>	
<p>③ 環境面への配慮</p> <p>・ 護岸に覆土を行い、水際植生に配慮。</p> <p>・ 河床は平坦とせず、現況河床をスライドダウンさせ元の河床形状に配慮。</p>	
<p>④ 事業を巡る社会経済情勢の変化</p> <p>・ 中津川市の人口は約5万人であり、ほぼ横ばい。</p> <p>・ 中津川中核工業団地がH3.3に完成し、H27.4時点では17社の企業が立地。</p>	
<p>⑤ 利用者・地域住民等への効果</p> <p>・ 治水については、約5割の住民が、「非常に効果があった・効果があった」と回答。</p> <p>・ 環境については、約4割の住民が、「非常によくなった・よくなった」と回答。</p> <p>・ 景観については、約5割の住民が、「非常によくなった・よくなった」と回答。</p>	
<p>対応方針（案）</p>	
<p>■ 今後の事後評価の必要性</p> <p>・ 今の段階では今後の事後評価は必要なし。</p> <p>■ 改善措置の必要性</p> <p>・ 今の段階では、本事業に対する改善措置の必要なし。</p> <p>■ 新規事業へ適用すべき留意点</p> <p>・ 計画段階から住民意見を取り入れると共に、住民等に対して河川事業の必要性や効果を説明し、事業への理解を深めていく。</p> <p>・ 今後も引き続き、浸水被害が発生した河川を中心に、新五流域総合治水対策プランに基づき、計画的に事業推進していく。</p>	

事後評価
総合流域防災事業
坂本川



県土整備部 河川課

位置図



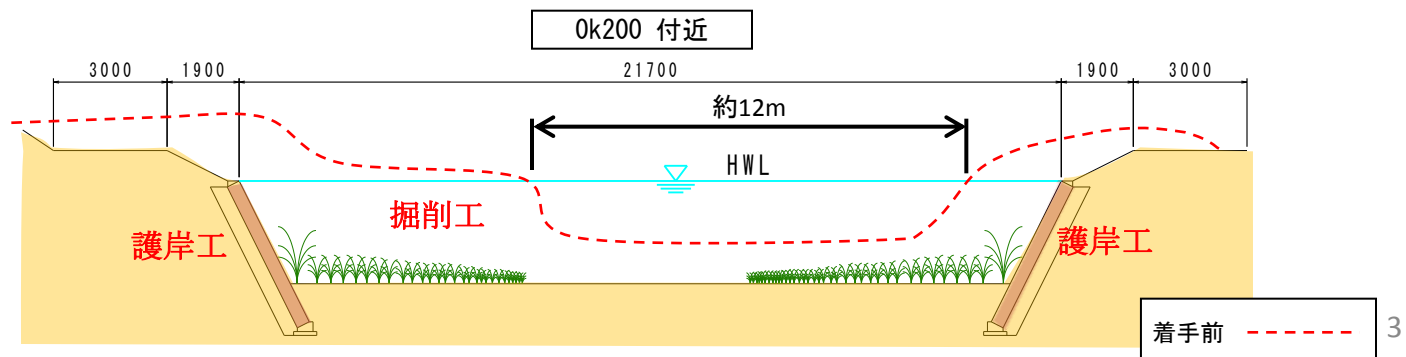
凡 例

- 流域界
- 市町村界
- 高速道路
- 主要道路
- 鉄道
- 事業区間

事業概要

- 事業箇所 : 中津川市
- 流域面積 : 21.2km²
- 全体延長 : 4.0km
- 総事業費 : 約37億円
- 事業期間 : S57年度～H21年度
- 計画規模 : 1/20年
- 計画流量 : 280m³/s
- 事業内容 : 掘削、護岸工、橋梁架替 等

標準横断図



住民の参加・協働による効果

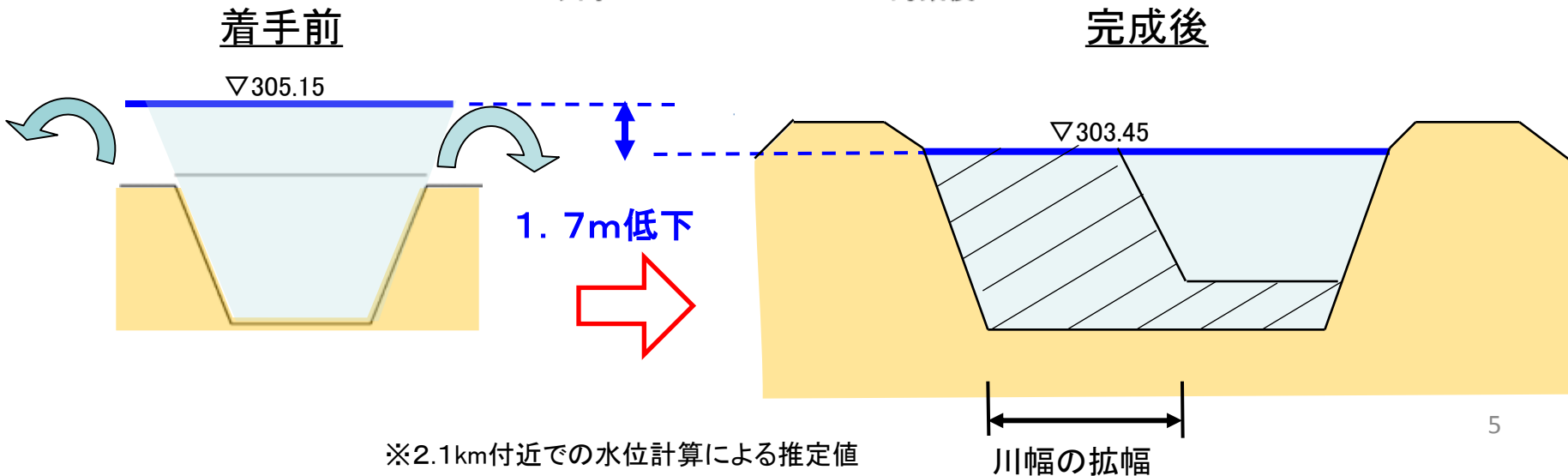
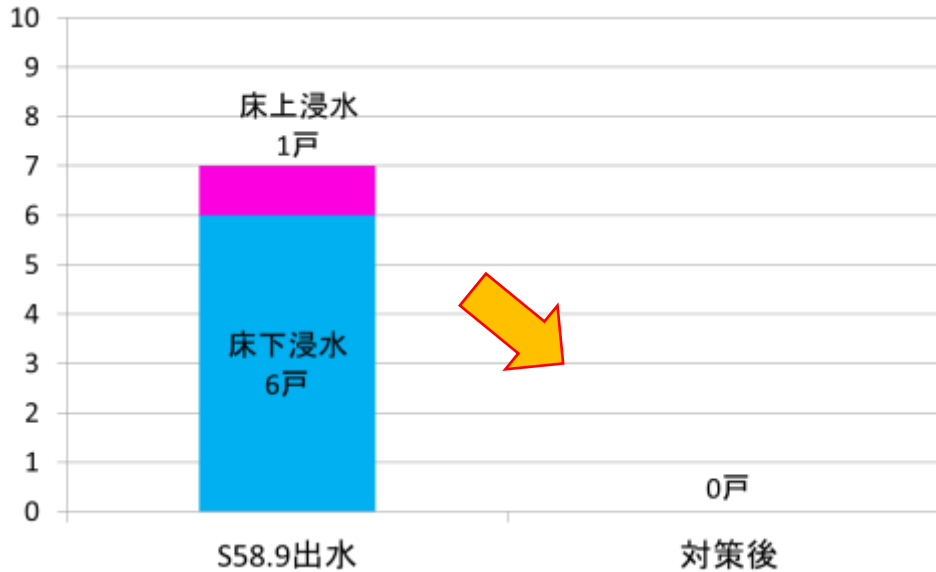
- 計画段階 : 事業説明会を実施
- 事業中 : 事業説明会及び河川整備計画策定時(H12.3)に住民アンケートを実施
- 事業後 : 地域住民による河川清掃、草刈り等の実施

事業後：地域住民による河川清掃、草刈り



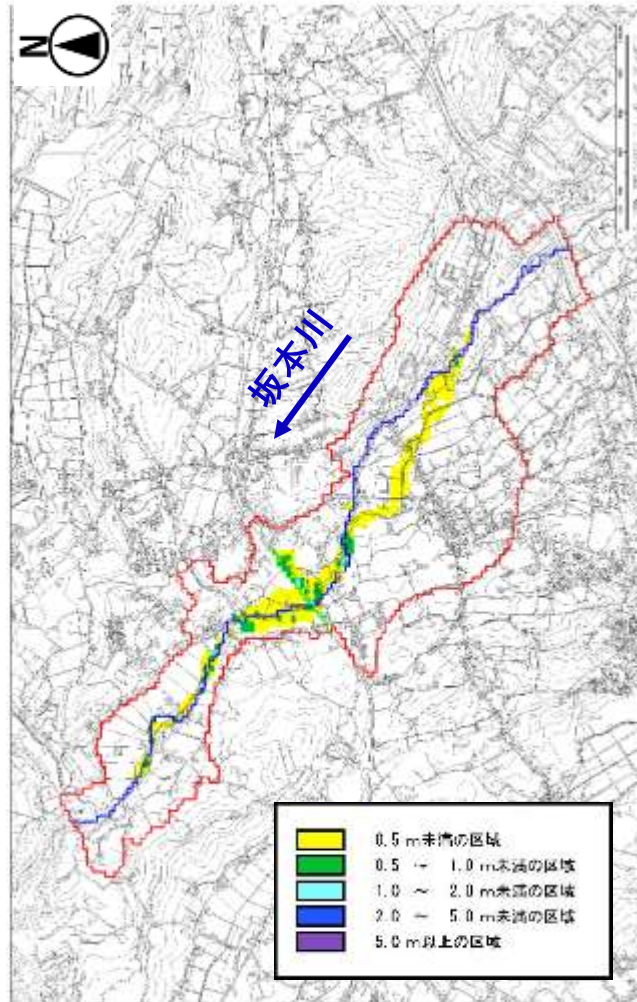
事業の効果①

- 昭和58年9月洪水に対して、浸水被害を解消
- 着手前に比べて、計画流量が流下した場合約1.7m水位が低下

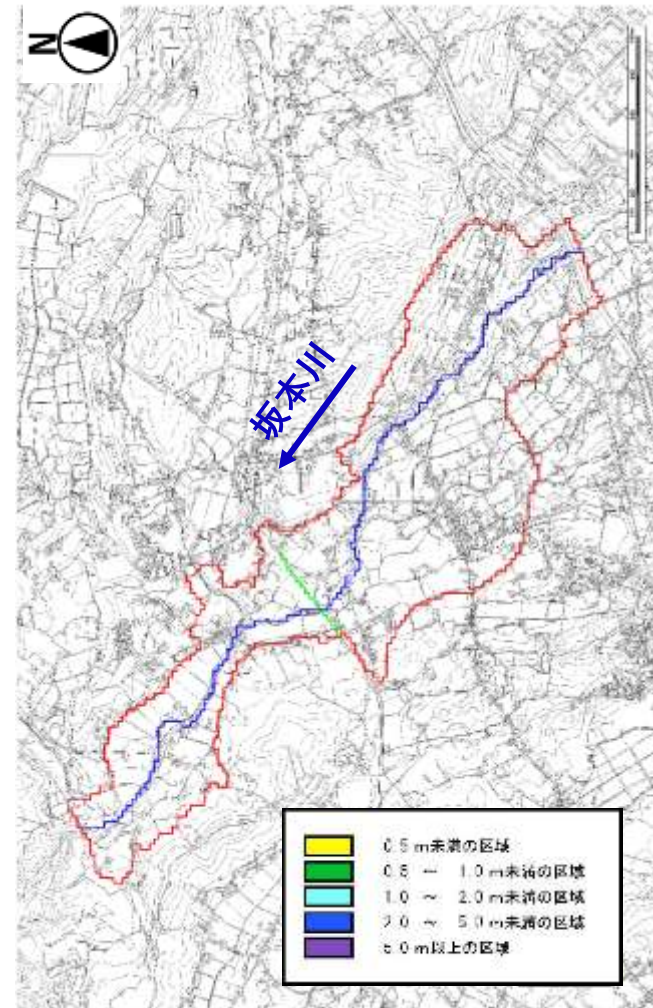
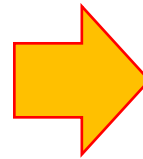


事業の効果②

■1/20規模の出水により想定される氾濫被害(浸水面積約25ha、浸水区域内人口約200人、浸水家屋数約70戸)が解消



1/20規模の出水による氾濫想定図
(着手時河道)



1/20規模の出水による氾濫想定図
(完成後河道)

費用対効果分析

■事業の効果

洪水氾濫被害防止便益

効果全体の100%

■投資的效果率

$$\frac{\text{総便益}}{\text{総費用}} = 1.5$$

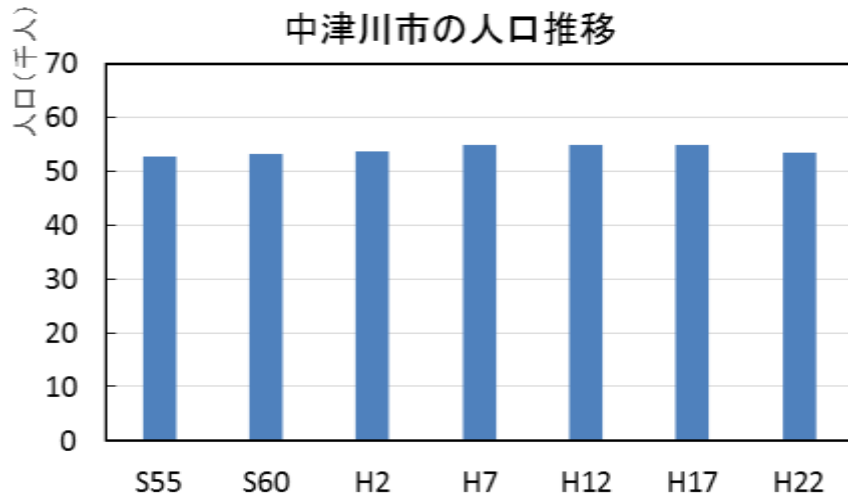
※治水経済調査マニュアル(案) (H17.4 国土交通省)に基づき算出

事業を巡る社会経済情勢等の変化

■ 中津川市の人口は約5万人であり、ほぼ横ばい

■ 中津川中核工業団地がH3.3に完成し、H27.4時点では17社の企業が立地

中津川市の人口推移

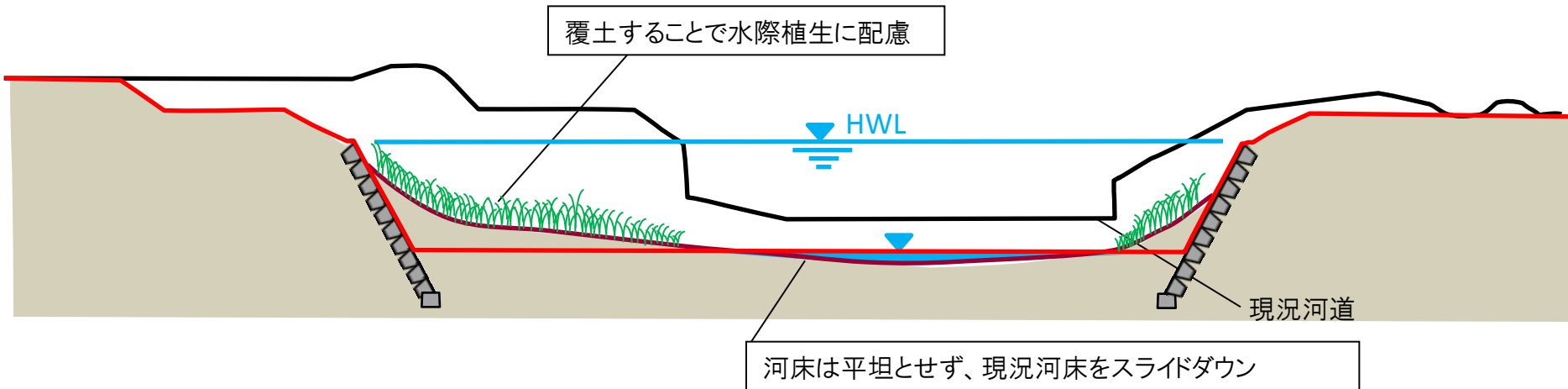


出典：国勢調査



環境面への配慮

- 護岸に覆土を行い、水際植生に配慮
- 河床は平坦とせず、現況河床をスライドダウンさせ、元の河床形状に配慮



水際植生が回復

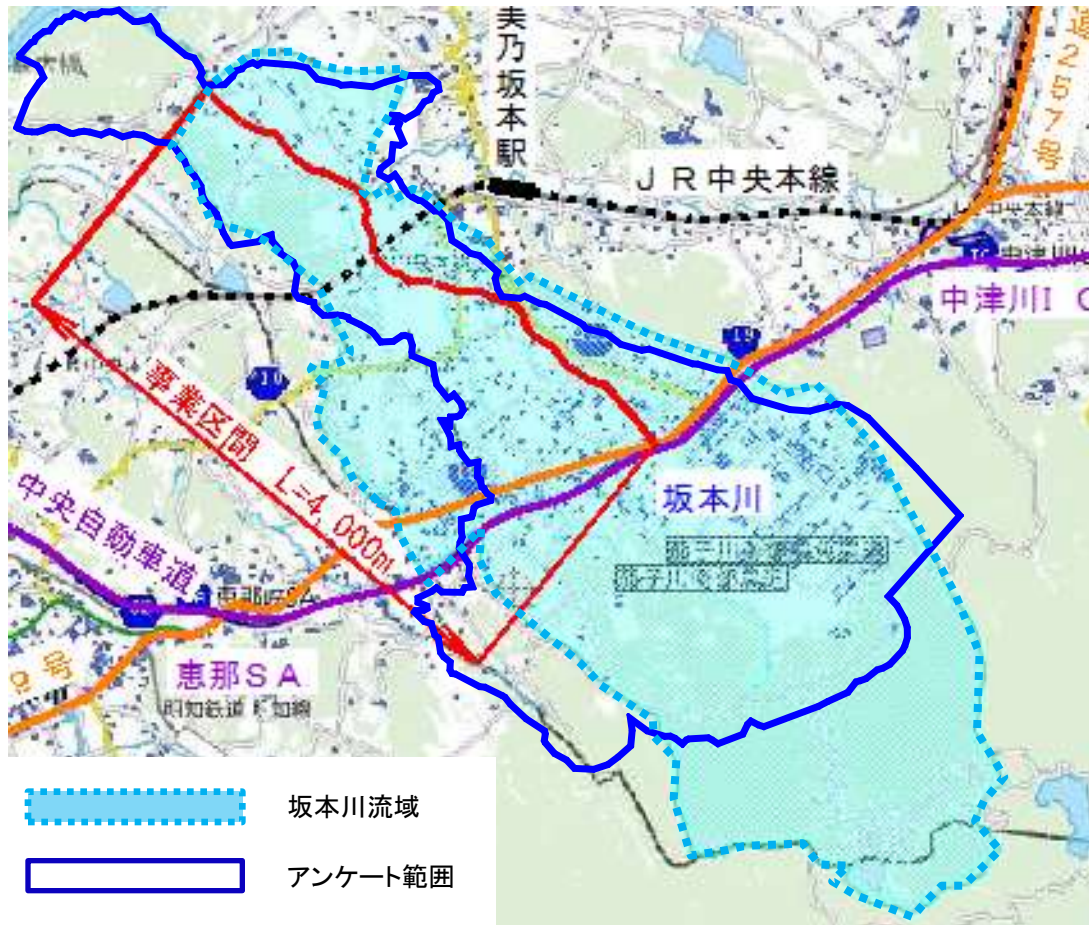


稻荷橋上流(Ok200付近)

利用者・地域住民等への効果①

◆アンケート調査地区の設定

- 坂本川沿川の区の全世帯を調査対象とした
- 調査表の配布及び回収は、町内会長を經由し実施した



アンケート調査世帯数

	合計
配布世帯数	1,188票
回収世帯数	382票
回収率	32%

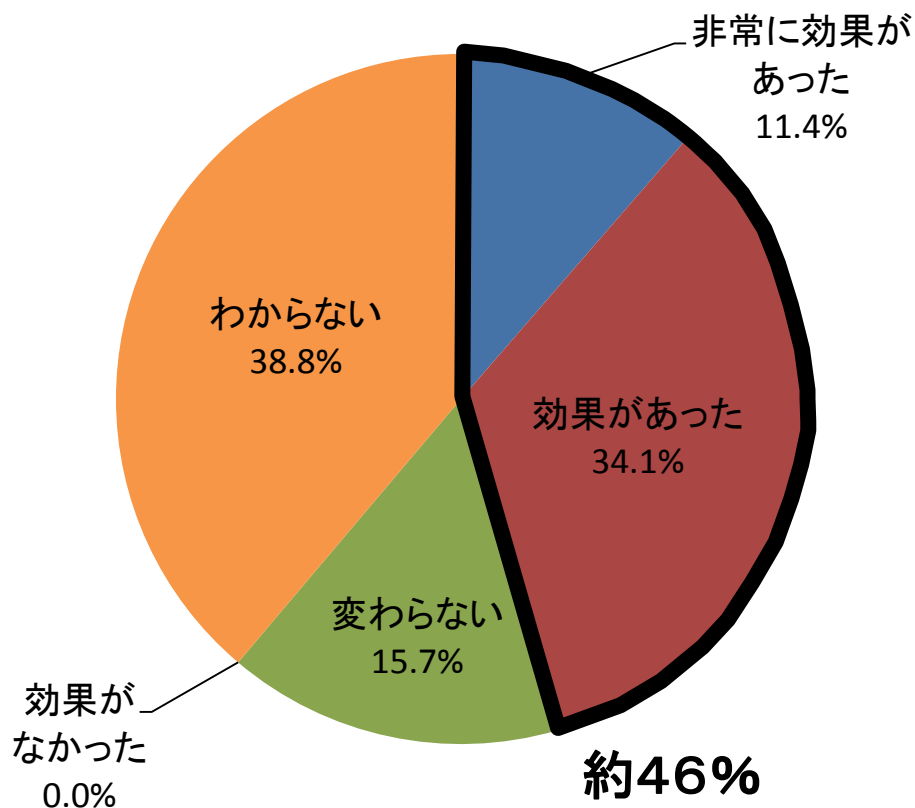
回収時期 平成27年9月

利用者・地域住民等への効果②

◆アンケート調査結果（治水効果に対する満足度）

■約5割の住民が、「非常に効果があった・効果があった」と回答

アンケート調査結果



◆自由回答意見（一例）

近年の異常気象を踏まえると、河川事業が大切になると思います。

自然保護は大切な事だと思います。しかし、大雨が降った際も含め、両者のバランスを考えた施策を期待します。



利用者・地域住民等への効果③

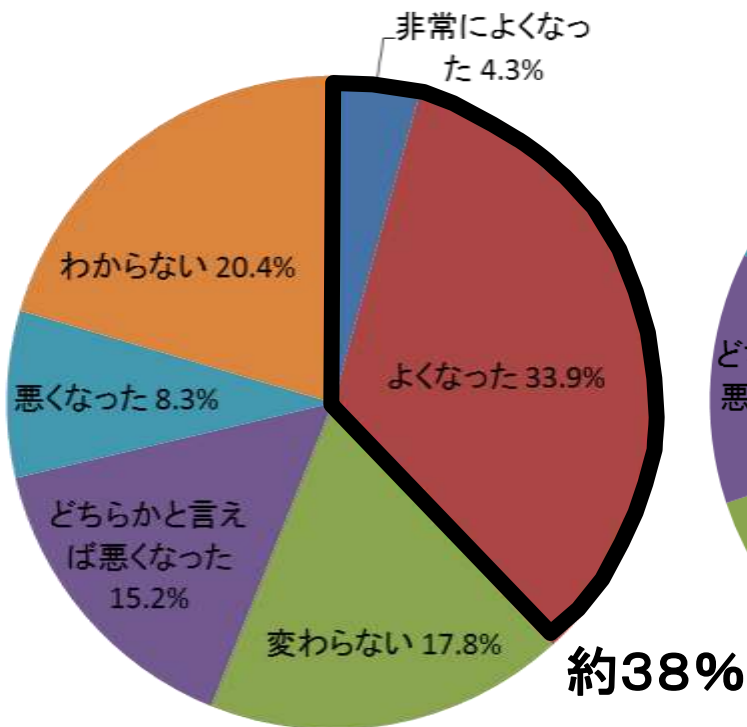
◆アンケート調査結果(環境・景観に対する満足度)

- 環境については、約4割の住民が、「非常によくなった・よくなった」と回答
- 景観については、約5割の住民が、「非常によくなった・よくなった」と回答

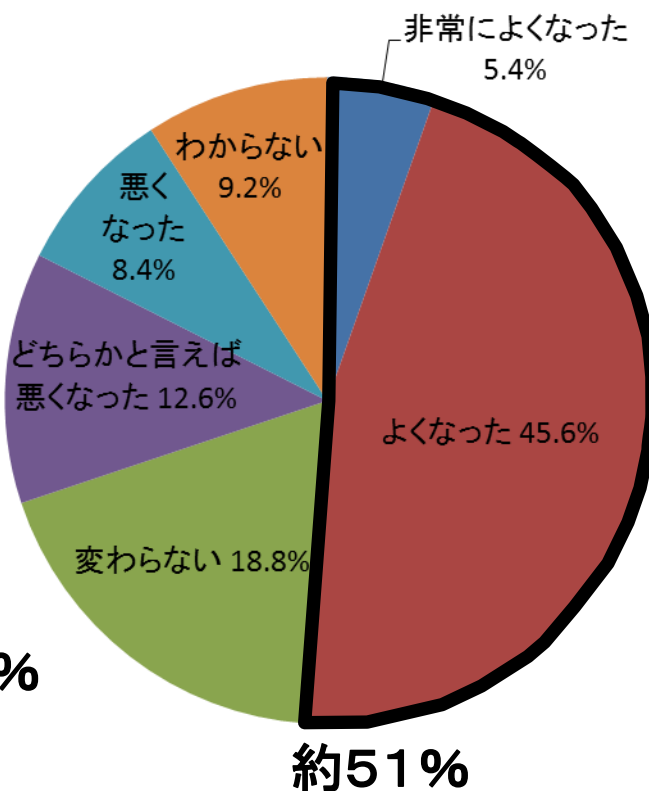
アンケート調査結果

◆自由回答意見(一例)

環境に対する満足度



景観に対する満足度



植生が回復し、自然に近い川になったことは、とても良い事です。

下水道の整備、地元住民の美化意識の高まりもあり、川がゴミ捨て場ではなくなりつつある事も環境改善につながっていると思います。



対応方針（案）

■今後の事後評価の必要性

- ・治水安全度が向上し、浸水被害が解消するなど事業効果を確認
- ・水際植生が回復するなど、河川環境も従前の状態に回復しつつある

⇒今の段階では今後の事後評価は必要なし

■改善措置の必要性

- ・今の段階では、本事業に対する改善措置の必要なし

■新規事業へ適用すべき留意点

- ・計画段階から住民意見を取り入れると共に、住民等に対して河川事業の必要性や効果を説明し、事業への理解を深めていく
- ・今後も引き続き、浸水被害が発生した河川を中心に、新五流域総合治水対策プランに基づき、計画的に事業推進していく